

はじめに

岩手中・高等学校「石桜同窓会」は昭和8年2月11日に発足し、その後歴代会長、役員をはじめ諸先輩のご努力で発展の一途をたどって現在に至っています。

会員数は平成19年会員名簿によると約8,000名(卒業生は旧制3,135名、新制11,675名 合計14,810名)を擁し発足から78余年経過し、年代も90余歳から19歳まで70余歳の巾広い年代層から成り立っています。

その間時代背景も大きく変化、様変はりし特に情報の多元化、価値感の変化等著しく情勢は確実に変貌してきています。

時代の変化の節目、節目には歴代同窓会会長を始め関係者は時代の変化に対応すべく活性化対策を重ね現在の同窓会の基礎を築いて頂きました。

最近の同窓会活動を検証すると理事会、総会等の出席率は著しく低下し、特に若い世代の同窓生も含め無関心の会員が多くなっているように感じます。

歴史と伝統のある石桜同窓会が将来にわたり益々発展するためには、各会員の英知を結集し活性化対策を考えなければならない時期になっているとの意見が多数寄せられています。

活性化対策について、平成21年10月2日の理事会で提案され、その後2回の理事会で活性化に対する意見、要望等多数の提言をいただきました。

今年7月28日の理事会で今迄の意見、提言を纏めるべく「石桜同窓会活性化検討委員会」を立ち上げて整理するようとの決議がなされました。

検討委員の選任は執行部に一任され、検討委員長に村井副会長が選任され下記委員が選任されました。

検討委員会	委員長	村井 紀之 (新18回生)
	委員	田中 義男 (新8回生)、小枝指 博(新9回生)、 赤澤 征夫 (新9回生)、武藤 正吾(新14回生) 越戸 国雄 (新16回生)、高橋 浩二(新20回生) 明戸 均 (新21回生)、桑原伸行(新22回生) 菅原一也 (新31回生)

第1回検討委員会は8月12日に開催し検討委員の確認と、今迄の意見、提言を論点整理し、10月7日開催の理事会に報告出来るように工程表を作り、計4回の検討委員会で協議しものを9月30日の常任理事会に諮り最終協議しました。 以下報告します。

主なる「論点整理」項目

- ・同窓会の組織強化
 - 学年理事、地域職場理事、クラブOB理事
- ・常任理事対策
- ・理事会対策
- ・総会対策
- ・財政関係
- ・同窓会活動の情報発信の検証
- ・同窓会会員名簿
- ・新規事業
- ・クラブ活動支援事業
- ・役員役割分担
- ・同窓会連絡網の構築整備
- ・事務局対策

◆ 同窓会の組織強化

○ 学年理事、地域・職域理事、クラブOB対策

- 問題点
- ・機能していない学年理事対策
 - ・クラスの多い学年理事対策
 - ・休眠同期会、支部対策
 - ・卒業時の理事選出
 - ・同期会未結成対策
 - ・若年理事の同窓会帰属意識高揚

1. 検討委員が分担して各理事に働きかけ、かなり成果が得られましたが引き続き理事会対策と連動し対応する。

2. 卒業時の理事に関する件は学校に協力を要請し以下の対応をする。

理事1名、サブ1名、各学年に幹事(連絡係り)1名を選出して頂く。

2年先に同窓会主催で仮称「20歳の集い」を開催し、企画は同窓会と上記新理事・幹事と一緒にあたる。

◆ 常任理事対策

○ 常任理事の増員

旧制中学卒業同窓生と若年同窓生まで年齢バランスをとり常任理事を若干増員する。

選任については、この検討委員会改革案が承認された後、直ちに執行部が責任を持って理事の中から人選にあたる。

【参考資料】同窓会会則 第10条

常任理事会は事業や行事等の企画立案のほか、会長が必要と認めた事項についての審議検討に当たり、理事会の審議作成に当たる。

◆ 理事会対策

○ 理事会開催

定例理事会2回開催

1回目 10月に開催 総会提出の事業・決算報告、事業方針・予算等について審議す。

2回目 総会后早い時期に開催し、事業計画、活動方針等について審議する。

出席率の向上対策

案内は往復ハガキで行い、出欠の確認(出席で出来ない場合は必ず代理出席を要請)

会議資料 議題、出席者名簿等必要事項

(どうしても出席出来ない理事に後日理事会協議事項報告(文書で))

その他 出席者の自己紹介、名札用意、領収書、会場選定

◆ 総会対策

○ 総会案内広報対策

- ・新聞広告(岩手日報)
- ・石桜同窓会ホームページ
- ・学年、地域・職場、クラブ等各理事の協力を得ての広報(ハガキ等で参加を呼びかける)
- ・各同期会等あらゆる機会に呼びかける。
- ・カラーでのポスター作成(予算も含めて検討したが、近い将来再考する)

○ 会費

一般 5,000円 学生 3,000円 新卒同窓生 無料で招待

(会費の見直しについては、会場の変更等も考慮し早い時期に協議し結論を得る)

○ 催事担当

催事担当は一回りしたが、引き続き順番で担当する。(例、1回生、11回生、21回生・・・)

◆ 財政問題

○ 石桜同窓会一般会計の主なる収入は(例 平成21年度)

- ・卒者の会費・入会金 会費 1,190,000円
入会金 850,000円 合計 2,040,000円
- ・石桜同窓生からの賛助会費 1,566,080円

合計3,606,080円から成り立っています。

【問題点】 新卒者の会費・入会金は今後少子化の影響で減少が予測される。
石桜同窓生からの協賛会費は 1,566,080 円で、各回生平均 4.2人です。

【対策】 協賛金拡大運動を展開し各同期会、会合等で啓蒙を図る。
石桜同窓会報発送時に振込み用紙と一緒に趣意書を同封し啓蒙を図る。

◆ 同窓会活動等の情報発信

情報発信手段は下記二つの方法で対処している。

○ 石桜同窓会報の発行

- ・現在発行している形式(新聞形式)
- ・新しい形式(A3二つ折り2枚、カラー化)にしてはの要望があるが、印刷代等が大幅に増える事から予算との兼ね合いを見て次年度検討する。

○ 石桜同窓会ホームページ

ホームページを開設してから3年7月位経過したが、年々アクセス数も増え、内容についても同窓生の沢山の助言、積極的な情報提供や要望等も取り入れ充実してきている。

【問題点】 ホームページの運営経費については、パナー広告での全額経費負担となっておりますが未達成である。(差額一般会計から補填)

【対策】 同窓生各位と各理事の更なるご協力をえて目標達成。

◆ 新規事業

- ・来年度より90周年記念事業の準備に着手
- ・同窓会名簿更新発行 来年度より準備に着手する
- ・仮称「20歳の集い」を開催(目標26年度)
- ・先人顕彰(例として三田義正翁、高橋克彦、村上昭夫(記念碑)のコーナーを学校内に新設

【対策】 経費と学校との協議とご理解を経て早期に検討する。

◆ クラブ活動支援事業

従来通り支援活動を実施するが、一般会計収入と勘案しなお一層の支援の強化を図る。

◆ 役員等の役割分担

仮称 組織強化委員会、事業推進委員会、財務委員会を新設し、現存するクラブ振興委員会、ホームページ委員会等も含めて整備し、各役員等で役割分担し、責任体制等を整備する。

◆ 同窓会連絡網の整備

「理事会対策」と関連し連絡網の整備をする。

◆ 事務局の整備

同窓会活動における事務局運営は、現状は人的、物的にも母校の先生(岩手高校卒業生)方々が事務処理を行い、同窓会活動の重要な部分を担っている。

- ・現状の体制が望ましいし、満足しているが負担をかけすぎではないのか
- ・学校と相談し双方良い方向で事務局の整備を図る。

最後に

以上論点整理し協議した結果を報告しますが、これ以外にも問題点があると思われる。

それも含めて、この報告を実のあるものにするためには同窓会会長の強力なリーダーシップと各役員、理事、同窓生と学校の協力なくしては叶わないと思います。

今後、この報告書をもとに三役が学校と相談、協議しご協力をいただき早急に実行できる項目から改革し、活性化に向けて前進するよう努力しますので、各理事をはじめ同窓生各位のなお一層のご協力をお願い申し上げます。